

本県産コシヒカリの販売状況について

1. 27年産米の販売を振り返って

出回り当初の販売は、概ね前年並みで推移していましたが、作柄不良などにより販売計画が減少したため、卸は特売提案を抑えるなど販売調整がはかられました。

また、前年産+500円で設定した相対価格を11月に更に500円引き上げました。

一方、関東・東北主要銘柄は、相対価格が前年産より500円程度引き上げられたものの、値上げによる消費減退を警戒する量販店では、これらの銘柄の小売価格を据え置き、特売は5kg1,280～1,380円（税別）の安値で販促を強化する動きが見られました。

このため、本県産コシヒカリの販売シェアが縮小し、結果的には、卸段階で持越在庫が発生する厳しい状況となっています。

2. 28年産米の販売について

主食用米の需給改善を背景に、相対価格は全国的に概ね500円～1,000円前後引き上げられています。ただし、高価格銘柄の北海道ゆめぴりか・山形つや姫は前年産据え置きとなっています。

本県産コシヒカリについては、依然として消費者の低価格志向が強く高価格銘柄の販売環境が厳しい中、単年度全量販売をはかる観点から前年産当初価格+500円（改定後と同価格）としています。

（単位：円/60kg、東京着、1等、裸、税別）

銘柄	28年産 a	27年産		前年差	
		当初 b	現在 c	a-b	a-c
一般コシヒカリ	16,000	15,500	16,000	+500	±0
魚沼コシヒカリ	19,800	19,300	19,800	+500	±0
岩船コシヒカリ	16,300	15,800	16,300	+500	±0
佐渡コシヒカリ	16,300	15,800	16,300	+500	±0
こしいぶき	13,200	12,000	13,200	+1,200	+700

新米出荷が始まってから、まだ半月足らずですが、初出荷は前年より早まったものの、一部量販店の新米切替が遅れていることから、販売は前年をやや下回っています。

28年産米については、他県産銘柄との価格差が縮まり売りやすくなるとの見方がある一方、値頃感を求める購買層が多いことや、北海道ゆめぴりか・山形つや姫の作付が増加していることなどから、一層厳しくなるとの見方もあります。

出来秋当初は、例年通り本県産コシヒカリの販促企画が組まれていますが、今後について卸は、東北・北海道すべての新米が出揃ってから売れ行きを見て何を主力銘柄とするかを見極めたいとしており、年内の販売が極めて重要となっています。

このため、出来秋からPRイベントを積極的に展開するとともに、卸と連携して実需者への販促提案を強化し、前年産で縮小した需要を回復していきたいと考えています。

(米穀部 大阪事務所)

～「新潟米コシヒカリ」新米収穫 記者発表会～

新潟米コシヒカリの魅力を広く発信するため、東京都内で報道関係者を招いて、新米収穫記者発表会を実施しました。

新潟を拠点に活動するアイドルグループ「NGT48」と生産者から構成された「新潟ライスガールズ」のコラボレーションPVの続編を製作したほか、新潟米使用のオリジナル駅弁やおむすびをJR東京駅・新潟駅構内で販売するなどの取組みを紹介しました。



日時：平成28年9月29日（木）14：00～15：10

場所：東京ステーションホテル

主催：新潟県、JA全農にいがた